Panasonic

DV 動画編集キット
品番 VW-DTM2CW
DV 動画編集ソフト
品番 VW-DTM2W

取扱説明書
（インストール / 簡易マニュアル）

MotionDV STUDIO 3.0J

保証書付き

このたびは、パナソニック DV 動画編集キット /DV 動画編集ソフトをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

松下電器産業株式会社
ビデオ事業部 〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号
放送システム事業部 〒 571-8503 大阪府門真市松葉町 2 番 15 号

S0201Mk0 (2400Ⓐ)

もくじ

ご使用前に

実際に編集してみよう

楽しさひろがるさまざまな使いかた

その他

内容物

内容物をご確認ください。

DV 動画編集キット /VW-DTM2CW

MotionDV STUDIO（CD-ROM）
パソコンにインストールして DV 動画編集を行います。

DV インターフェースカード
PC Card Standard 準拠の CardBus 対応の Type II のカードです。
（使用方法については別冊の DV インターフェースカード編をお読みください）

DV ケーブル（4-6 ピン）2 本
パソコンとデジタルビデオ機器を接続するときに使います。

DV 動画編集ソフト /VW-DTM2W

MotionDV STUDIO（CD-ROM）
パソコンにインストールして DV 動画編集を行います。

DV ケーブル（4-4 ピン）2 本
パソコンとデジタルビデオ機器を接続するときに使います。

特長

次▶
◀前

MotionDV STUDIO はパソコンとデジタルビデオ機器（デジタルビデオカメラなど）をつないで、映像を編集するソフトです。
映像編集にはノンリニア編集とテープ（リニア）編集がありますが、MotionDV STUDIO を使うと、どちらの編集も行えます。また、両方の長所を生かしたハイブリッド編集を行うこともできます。
D-VHS ビデオを接続すると、MotionDV STUDIO3.0J で出力した MPEG2 ファイルを記録することができます。（Windows® Me でご使用の場合のみです）

■ ノンリニア編集

デジタルビデオ機器の映像をパソコンに取り込み、編集します。様々な特殊効果を入れることができます。

取り込み
(キャプチャー)

映像を
並べかえる

編集・加工

場面の切換に
トランジションエフェクト
ビデオクリップにかける
ビデオエフェクト・3Dアレンジ
音声を追加する
オーディオミックス
タイトラーを使って、文字・アニメを追加する
タイトル作成（動画(AVI)形式で保存してください）

テープなどに
編集内容を記録

■ テープ（リニア）編集（この編集にはパソコンに i.LINK 端子 /IEEE1394.a 準拠が 2 つ必要です）

パソコンに 2 台のデジタルビデオ機器をつないで編集します。この編集では映像をパソコンに取り込むことはせず、パソコンは 2 台の機器を制御するコントローラーの役割をします。（映像は 1 台目の機器から 2 台目の機器に直接転送されます）

パソコン
から制御

パソコン
から制御

データの流れ

■ ハイブリッド編集

ノンリニア編集とテープ編集の長所を生かした編集ができます。
ノンリニア編集は様々な特殊効果を入れることができますが、長時間の映像を取り込むにはたくさんのハードディスク容量が必要です。（約 4 分で 1GB）いっぽう、テープ（リニア）編集は長時間映像の編集は簡単ですが、特殊効果や音声を入れることはできません。MotionDV STUDIO では長時間の編集にはテープ編集、特殊効果を入れたい場面はノンリニア編集というように使い分けることができます。

動作環境

MotionDV STUDIO をインストールして使うには、パソコンに以下の環境が必要になります。

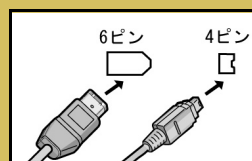
■ 動作環境

対象 OS：	プリインストールされた Microsoft® Windows® Me（Millennium Edition）日本語版及び Microsoft® Windows® 98 Second Edition 日本語版
CPU：	Intel® Celeron™ プロセッサ 333MHz 以上
ハードディスク：	UltraDMA-33 以上 130MB 以上の空き容量が必要（コンパクトインストール） 320MB 以上の空き容量が必要（標準インストール） 約 4 分のデータで 1GB （映像の取り込みに必要なハードディスク容量の目安）
搭載メモリ：	64MB 以上（メモリ増設でより快適な操作ができます）
ビデオ：	1024 × 768 以上 /High Color（16 bit）以上 （Direct Draw のオーバーレイに対応）
サウンド	PCM 音源（Direct Sound 対応）
インターフェース	i.LINK 端子（IEEE1394.a 準拠）
その他	CD-ROM が読めるドライブ

- i.LINK は IEEE1394 - 1995 仕様、およびその拡張仕様です。
- 上記の動作環境を満たしていても、一部ご使用になれないパソコンがあります。

■ 対応デジタルビデオ機器 / 用意するもの

対応デジタルビデオ機器：	● i.LINK（IEEE1394/DV）端子付きのデジタルビデオ機器（別売） ● D-VHS 録画機器（別売）（Windows® Me でご使用の場合のみ）（出力・録画のみ行えます）
用意するもの：	DV テープなど DV ケーブル（付属）

- **DV ケーブルはパソコンの端子の形状に合わせてお使いください。**
- D-VHS ビデオとパソコンを接続する場合、DV 動画編集キット /VW-DTM2CW をお使いのかたは同梱の DV ケーブルをお使いいただけます。DV 動画編集ソフト /VW-DTM2W をお使いのかたは D-VHS ビデオに同梱の DV ケーブルをお使いください。

■ その他

- Windows®のスタートメニューから[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[MotionDV STUDIO3]→[チュートリアル]を選ぶと、オンラインのマニュアルが表示されます。（Flash Player 5.0 が必要です）また、[デモンストレーション]を選ぶと、デモムービーが表示され、[ビデオ撮影講座］を選ぶと中村知好氏のビデオ撮影講座が起動します。
- このソフトウェアに収録されているサンプル画像などは、個人で楽しむ目的のみに使用できます。営利目的に使用する場合には権利者の許諾が必要です。
- ソフトウェアのバージョンアップやパソコンの使用環境などにより本説明書の内容・画面と実際の内容・画面が一致しないことがあります。あらかじめご了承ください。

MotionDV STUDIO の詳しい情報や対象パソコン / デジタルビデオ機器についてはインターネット上のパナソニックビデオ (MotionDV STUDIO) のホームページをご確認ください。

http://www.panasonic.co.jp/avc/video/DIGICAM/mdv/top.htm

MotionDV STUDIO のインストール

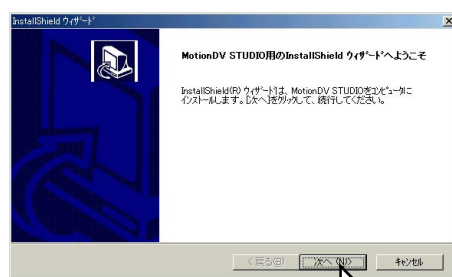
次▶
◀前

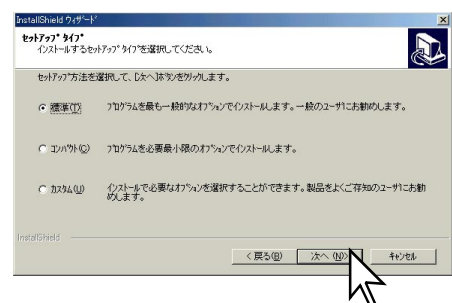
MotionDV STUDIO をインストールします。インストール前に DV ケーブルを抜いておきます。

1

MotionDV STUDIO の CD-ROM をパソコンに入れる
自動的にセットアッププログラムが起動します。
自動的に起動しない場合は、CD-ROM 内の SETUP.EXE アイコンをダブルクリックします。

2

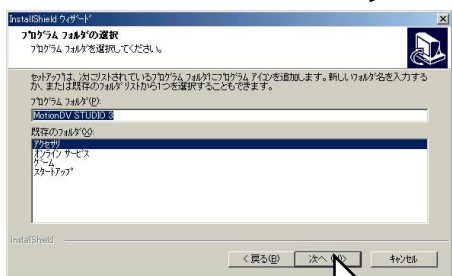
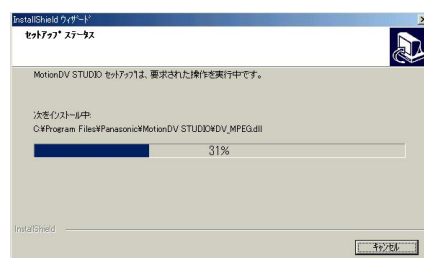
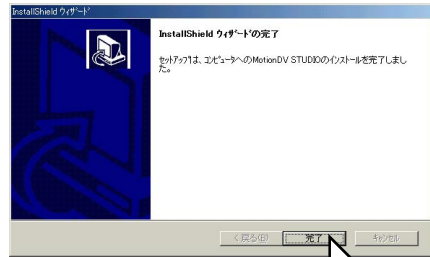
[次へ] ボタンをクリックする
次の画面にすすみます。

3

[次へ] ボタンをクリックする
［コンパクト］や［カスタム］を選ぶこともできます。

4

［次へ］ボタンをクリックする

5

セットアップが始まります。

次▶
◀前

6 セットアップ終了後、［完了］ボタンをクリックする

7 [はい] ボタンをクリックする

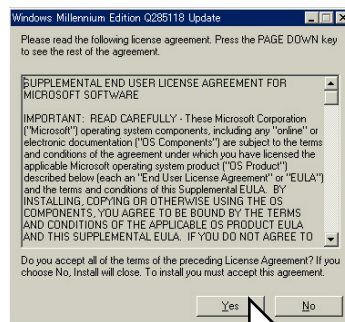
MotionDV STUDIO を使用するために必要なドライバーをインストールします。

- Windows® Meをお使いの場合はD-VHSビデオを使うためのドライバーがインストールされます。（Windows® 98 Second Edition をお使いの場合は D-VHS ビデオは使えません）
- Windows® 98 Second Edition をお使いの場合はデジタルビデオ機器を使うためのドライバーがインストールされます。（Windows® Me の場合標準で使えます）

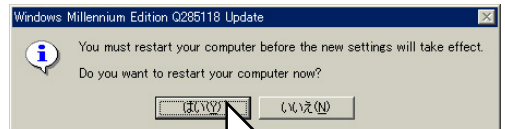
Windows® Me の場合の例

日本語訳
このプログラムは、コンピューターに Windows Millennium Edition Q285118（Windows 98 Second Edition Q243174）のアップデートをインストールします。続けますか？

8 ［YES］ボタンをクリックする

ドライバーをアップデートする上での使用許諾補足契約書を読み、合意する場合は［YES］ボタンをクリックします。（巻末に日本語訳を載せています。ご参照ください）

9 [はい] ボタンをクリックする

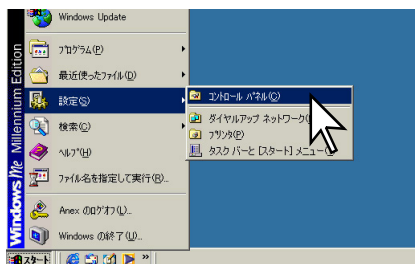
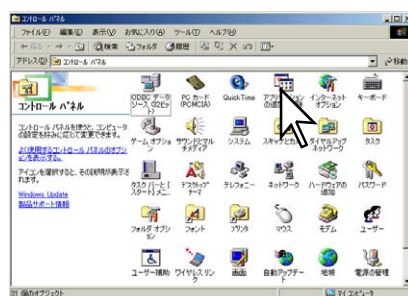
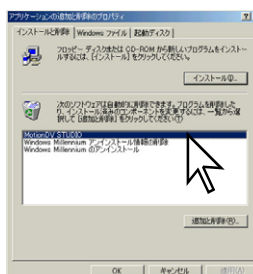
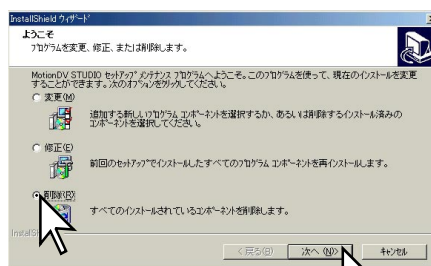
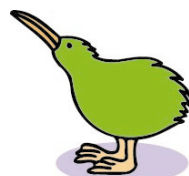
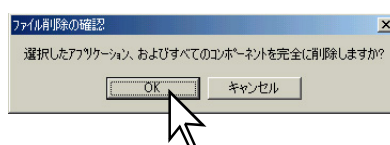
再起動後、MotionDV STUDIO が使用できるようになります。

- DV動画編集キット/VW-DTM2CWをお使いの場合は引き続きカードのドライバーをインストールしてください。
- まず、[スタート] → [プログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO3] → ［はじめにお読みください］を選び、補足説明や最新情報を必ずお読みください。
- MotionDV STUDIO の起動前にはパソコンのハードディスクに DMA 設定をしてください。（Q&A(P37) をお読みください）

日本語訳
新しい設定を有効にするにはコンピューターを再起動しなければなりません。今すぐコンピューターを再起動しますか？

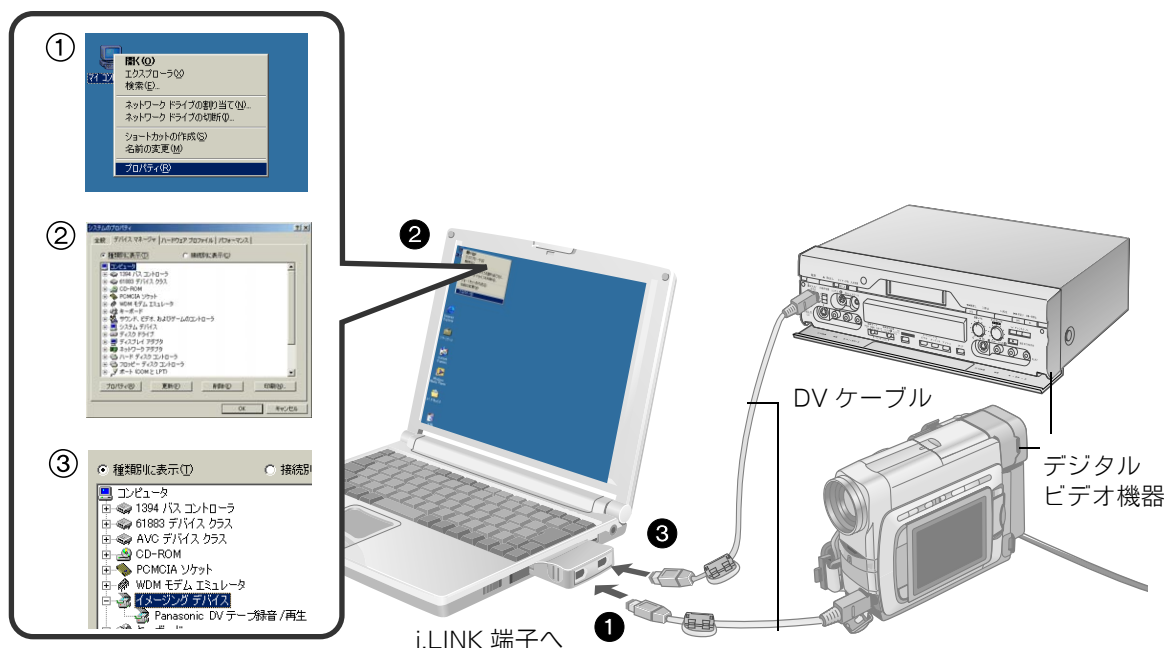
MotionDV STUDIO のアンインストール

次▶
◀前

MotionDV STUDIO が不要になったときにアンインストールします。すでにインストールしている場合にセットアップを実行してもアンインストールできます。

1 **Windows のスタートメニューから［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を選ぶ**

2 **［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックする**
次の画面にすすみます。

3 **［MotionDV STUDIO］を選んで、［追加と削除］ボタンをクリックする**
アンインストールが始まります。

4 **［削除］を選んで、［次へ］ボタンをクリックする**

5 **［OK］ボタンをクリックする**
アンインストール完了後、［完了］ボタンをクリックすると、パソコンが再起動します。再起動後、パソコンをお使いください。

接続

パソコンを起動した後、下図のように接続します。**DV ケーブルは必ず接続機器の電源を入れた状態で接続してください。**

①
②
③
DV ケーブル
デジタル
ビデオ機器
i.LINK 端子へ

❶ デジタルビデオ機器の電源を入れた後、パソコンと DV ケーブルで接続する

デジタルビデオ機器を使用するモード（再生モードなど）に設定後、接続してください。

接続時にパソコン側で認識するのに時間がかかる場合があります。

● 最初の機器接続時にバージョン競合のメッセージが表示されますので、［はい］ボタンをクリックしてください。

❷ 正常に接続できているか確認する

①[マイ コンピュータ] アイコンを右クリックしてコンテキストメニューから[プロパティ]を選ぶ

[システムのプロパティ] が開きます。

②[デバイス マネージャ] タブをクリックする

③[イメージングデバイス] アイコンをダブルクリックする

ご使用機種が表示されているか確認します。
（[Panasonic DV テープ録音 / 再生］など）
表示名は接続機種、OS により異なります。

❸ デジタルビデオ機器を 2 台接続するときは ❶ と同じように接続し、❷ と同じように接続を確認する

❹MotionDV STUDIO を起動する

スタートメニューから [スタート] → [プログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO3] → [MotionDV STUDIO] を選びます。

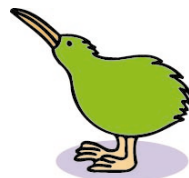
■ 接続時のお願い・ヒント

● 接続中はデジタルビデオ機器の電源を切らないでください。
● 接続中は電源が入っている状態でカセットの出し入れをしてください。
● 撮影モードで起動するときはカセットを抜いておいてください。
● 2 台の機器の接続を外すときは、1 台目を外した後、接続状態を確認してから 2 台目を外してください。
● デジタルビデオカメラ使用時は AC アダプターをお使いください。
● **D-VHS ビデオの接続方法については、「D-VHS ビデオを接続しよう」(P34) をお読みください。**
● **正常に接続できない場合は、「Q&A」(P37) をお読みください。**

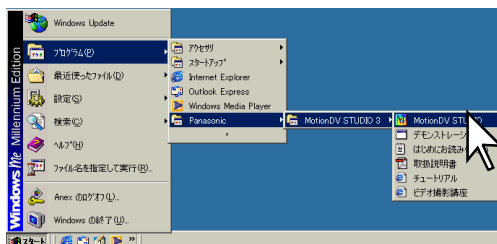
起動してみよう

さっそく起動して MotionDV STUDIO を使いましょう。使いかたの詳細は PDF 説明書をお読みください。本書では使いかたの概要を簡単に説明しています。

準備

1

Windows のスタートメニューから［プログラム］→［Panasonic］→［MotionDV STUDIO3］→［MotionDV STUDIO］を選ぶ

最初の起動時に使用許諾書が表示されますので、よくお読みの上［同意します］ボタンをクリックしてください。

基本

2

MotionDV STUDIO が起動します。

❶ **コントロール画面**

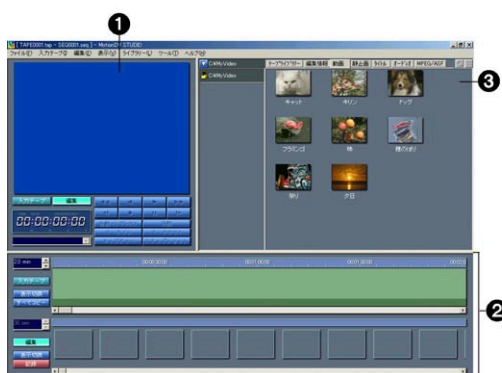
接続機器や取り込んだ映像（ビデオクリップ）を制御します。

❷ **編集画面**

入力テープトラック（上側）には接続機器の映像が表示されます。

編集トラック（下側）に接続機器の映像やビデオクリップを配置して編集します。

❸ **ライブラリー画面**

ビデオクリップや編集情報などがアイコン表示されます。

■ コントロール画面について

コントロール画面のボタンの働きは入力テープモードと編集モードで異なります。

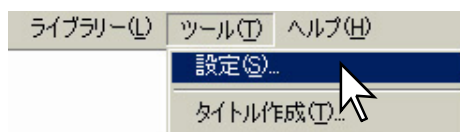
- ［入力テープ］ボタンをクリックして入力テープモードにすると、接続機器を操作できます。
- ［編集］ボタンをクリックして編集モードにすると、トラックに配置したビデオクリップを制御できます。（ボタンの詳細については PDF 説明書、ヘルプをお読みください）

■ キャリブレーションについて

お使いのデジタルビデオ機器によっては微妙なタイミングのずれから録画映像に未録画部分ができたり、映像が一部切れたりすることがあります。編集前にキャリブレーションを行って、タイミング補正を行ってください。

キャリブレーションはメニューの［ツール］→［設定］から［機器］を選んで行います。

キャリブレーションが途中で止まる場合は、手動で補正してください。（「Q&A」（P37））

（詳細は PDF 説明書をお読みください）

映像をパソコンに取り込んでみよう

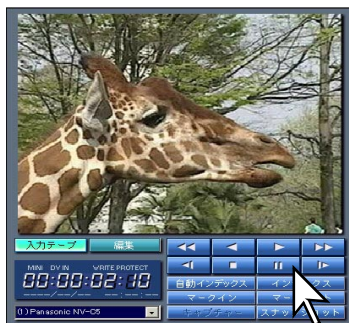
まず編集に使うシーンの映像をパソコンに取り込みましょう。

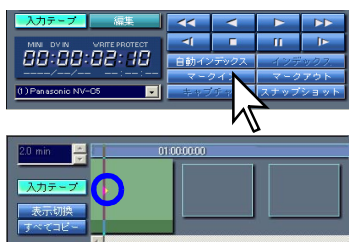
次▶
◀前

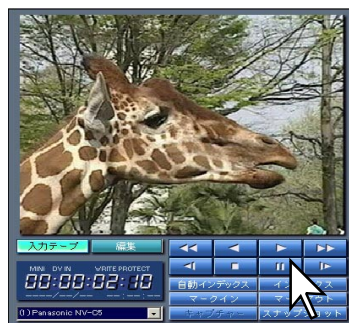
1

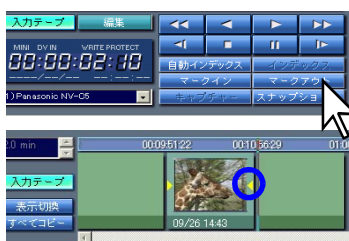
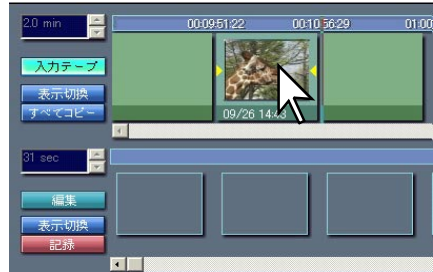
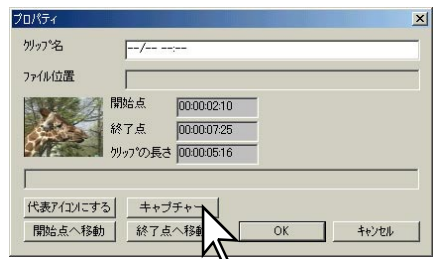
[入力テープ] ボタンをクリックする
入力テープモードになります。
接続しているビデオ機器が操作できます。

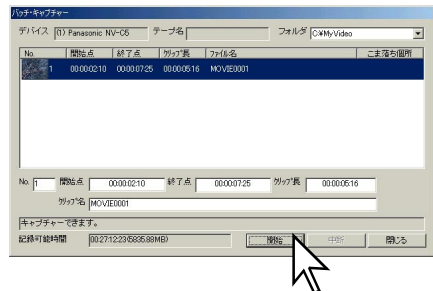
2

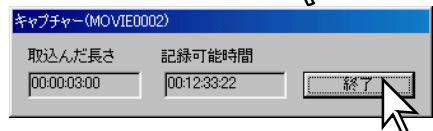
映像を再生し、取り込み始めるところで静止画再生にする
再生ボタン［▶］をクリックすると、再生画像がプレビュー画面に映ります。
静止画ボタン [❚❚] をクリックすると、静止画再生になります。

3

[マークイン] ボタンをクリックする
取り込み開始点が設定され、入力テープトラックに黄色のマーク [▶] が表示されます。
右図はアイコン表示の例です。[表示切換] ボタンをクリックすると、時間軸表示に変わります。

4

映像を再生し、取り込みを終わりたいところで静止画再生にする
静止画ボタン [❚❚] をクリックすると、静止画再生になります。

5

[マークアウト] ボタンをクリックする
取り込み終了点が設定され、入力テープトラックに黄色のマーク [◀] が表示されます。

6
取り込む映像のアイコンをダブルクリックする
プロパティ画面が表示されます。

7
取り込みボタン[キャプチャー]をクリックする
取り込み設定画面が表示されます。

8
[開始]ボタンをクリックする
自動的に取り込み開始点までテープを巻き戻し、映像を取り込みます。

[閉じる]ボタンをクリックするとプロパティ画面に戻ります。[OK]ボタンをクリックするとプロパティ画面が閉じます。

9
取り込み完了後、ライブラリー［動画］に取り込んだ映像（ビデオクリップ）が表示されます

■ ワンタッチで取り込むには
接続機器を再生中に、コントロール画面の[キャプチャー]ボタンをクリックすると、映像を取り込むことができます。
[終了]ボタンをクリックすると、取り込みが終了します。

映像を好みの順番につないでみよう

取り込んだ映像（ビデオクリップ）を好みの順番につなぎます。

次▷
◁前

1

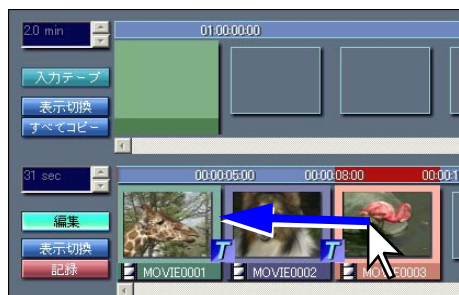
ライブラリーの[動画]タブをクリックする
ビデオクリップが表示されます。

2

任意のビデオクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする
ビデオクリップが編集トラックに表示されます。

3

手順 2 を繰り返し、好みの順番に配置する

■ 配置したビデオクリップの順序を変えるには
ビデオクリップをドラッグ・アンド・ドロップで任意の位置に挿入します。

■ 配置したビデオクリップを再生するときは

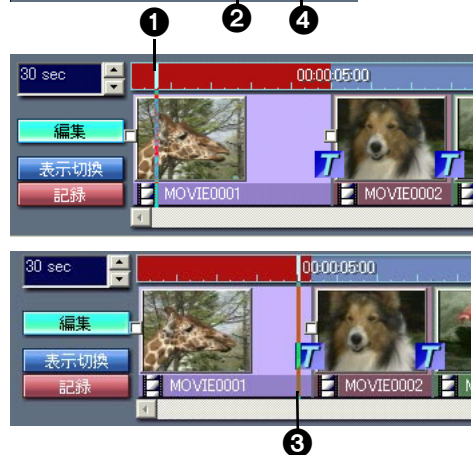
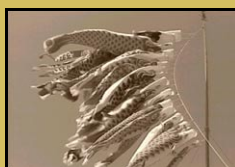
❶［編集］ボタンをクリックして編集モードにする
❷ カレントバー（編集トラックの赤いライン）をトラックの先頭にドラッグする
❸ 再生ボタン［▶］をクリックする

■ ビデオクリップをトリミング（長さを変える）するときは

❶ カレントバー（赤いライン）をビデオクリップの開始点にしたいところまで移動させる
❷［マークイン］ボタンをクリックする
新たに設定した開始点より前の映像がカットされます。
❸ カレントバー（赤いライン）をビデオクリップの終了点にしたいところまで移動させる
❹［マークアウト］ボタンをクリックする
新たに設定した終了点より後の映像がカットされます。

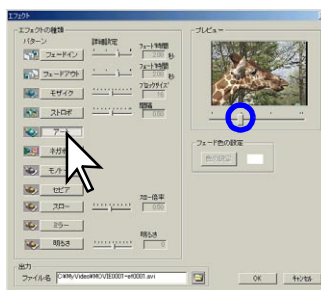
● ［表示切換］ボタンをクリックし、時間軸表示にしておくと、トリミングをするのに便利です。
● ビデオクリップ両端のトリミングマーク［□］を左右にドラッグして、ビデオクリップをトリミングすることもできます。（トリミングをやり直したい場合はこの方法で行ってください）

ビデオ効果を入れてみよう

次▶
◀前

配置したビデオクリップにビデオ効果を入れます。
下記は効果（ビデオエフェクト）の例です。

フェードインの例　　アートの例　　セピアの例

実際の動きは、サンプル映像画面でご確認ください。

1 **効果を入れたいビデオクリップを右クリックし、コンテキストメニューの［ビデオエフェクト］を選ぶ**
ビデオエフェクト設定画面が表示されます。

2 **ビデオエフェクトの種類を選ぶ**
スライダー［ ］をドラッグすると、プレビュー部で効果を確認できます。

3 **[OK] ボタンをクリックする**
レンダリングが始まります。

4 レンダリングが完了すると、編集トラックのビデオクリップ右上にマーク [EF] が付きます。
効果の入ったビデオクリップはライブラリーにも表示されます。

シーンの変わり目に効果を入れよう

配置したビデオクリップとビデオクリップの間に効果を入れます。
下記は効果（トランジションエフェクト）の例です。

次▶
◀前

ワイプの例

ページの例

クロックの例

実際の動きは、
サンプル映像画面
でご確認ください。

1

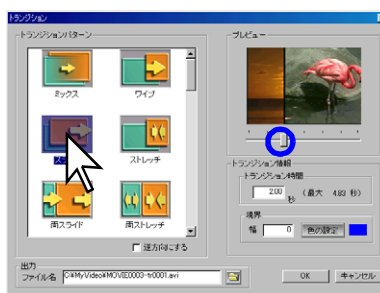
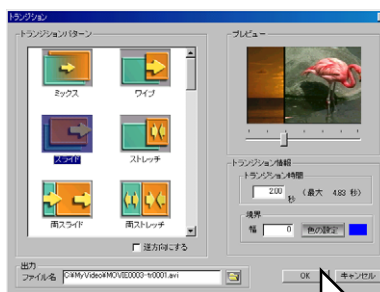
効果を入れたい部分のトランジションマーク [T] をダブルクリックする
トランジションエフェクト設定画面が表示されます。

2

任意のトランジションパターンをクリックして選ぶ
スライダー［ ］をドラッグすると、プレビュー部で効果を確認できます。

3

[OK] ボタンをクリックする
レンダリングが始まります。

4

レンダリングが完了すると、編集トラックのビデオクリップ左上にマーク [TR] が付きます。

効果の入ったビデオクリップはライブラリーにも表示されます。

3次元の映像でアレンジしよう

次▶
◀前

3次元のアニメーションに映像をはめ込んだビデオクリップを作ります。
下記はアニメーションの例です。

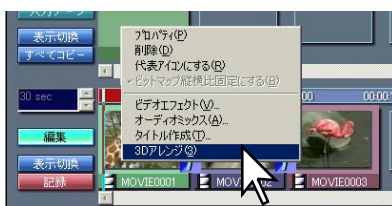
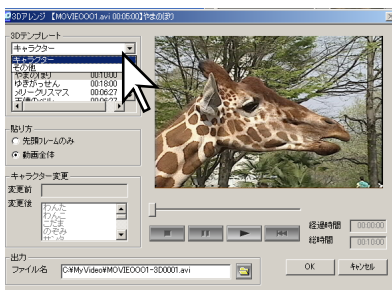
ゆきがっせんの例

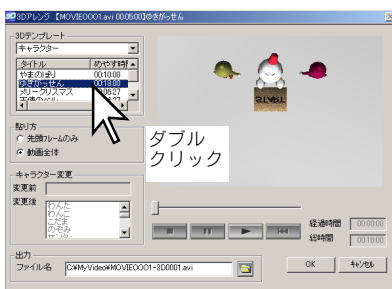
メリークリスマスの例

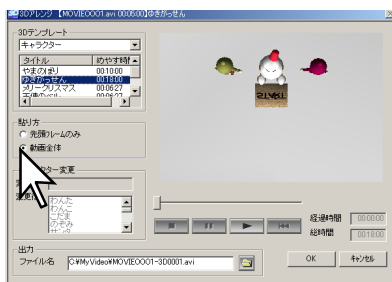
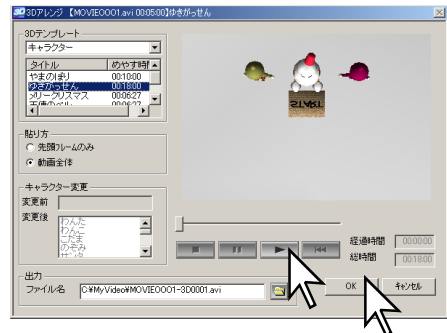
電車広告の例

実際の動きは、サンプル映像画面でご確認ください。

1 **アニメーションを入れたいビデオクリップを右クリックし、コンテキストメニューの[3D アレンジ] を選ぶ**

3次元アニメーションの設定画面が表示されます。

2 **プルダウンボタン [▼] をクリックして、3D テンプレートの種類を選ぶ**

3 **タイトルの項目をダブルクリックして選ぶ**

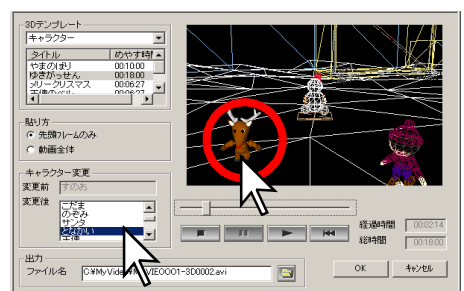
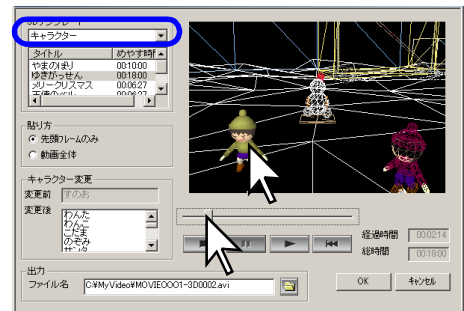
ダブルクリック

4 **アニメーションを入れる映像の種類を選ぶ**

先頭フレームのみ：
ビデオクリップの最初の画面が静止画で入ります。
動画全体：
ビデオクリップの映像が入ります。

5 **再生ボタン[▶]をクリックして、プレビュー画面で確認し、[OK] ボタンをクリックする**

6 **[はい] ボタンをクリックする**
レンダリングが始まります。

7 ビデオクリップにアニメーションが入ります。

効果の入ったビデオクリップはライブラリーにも表示されます。

■ アニメーションのキャラクターを変えるには
手順 2 で 3D テンプレートの種類を [キャラクター] にした場合、キャラクターを変更できます。

❶ プレビュー画面の [ ] をドラッグして、変更したいキャラクターを表示させる
❷ プレビュー画面で変更するキャラクターをクリックする
❸ [キャラクター 変更] 画面で、変更したいキャラクターをクリックする
❹ 変更したプレビュー画面のキャラクターをクリックする

音声を追加する

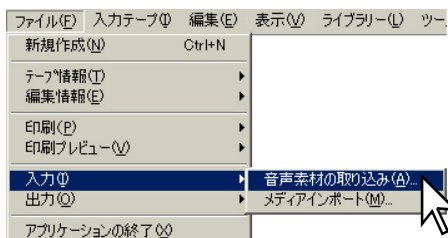
ビデオクリップに音声を追加します。（オーディオミックス）音声を録音して
WAVE ファイルにし、ファイルの音声をビデオクリップに追加します。

次▷
◁前

1

メニューの [ファイル] → [入力] → [音声素材の取り込み] を選ぶ

[WaveRecorder] 画面が表示されます。

● パソコンのマイク端子に音声機器やマイクをつないでおいてください。（Windows 側で設定の必要な場合があります。パソコンの説明書をお読みください）

2

録音ボタン [●] をクリックする

録音が始まりますので、接続している再生機器を再生します。
ナレーションなどを入れるときはマイクに向かって音声を入れます。

3

停止ボタン [■] をクリックする

録音を停止します。

録音した音声を確認するときは、[▶] をクリックします。

4

[保存] ボタンをクリックする

保存のメッセージが出ます。
[OK] をクリックすると、音声が保存されます。
録音完了後、[閉じる] ボタンをクリックして [WaveRecorder] 画面を閉じます。

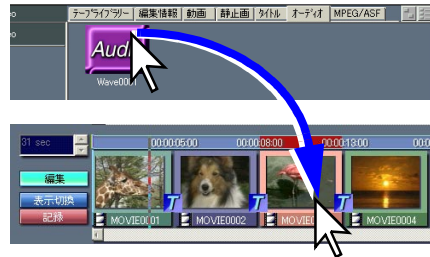
これで、オーディオミックスに使う音声ファイル（WAVE ファイル）ができました。

5

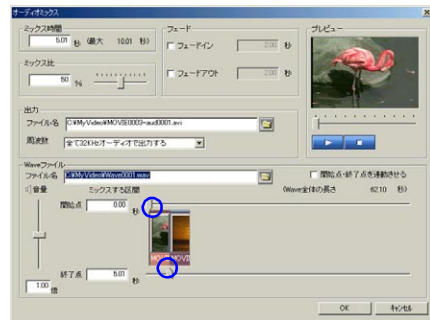
ライブラリーの [オーディオ] タブをクリックする

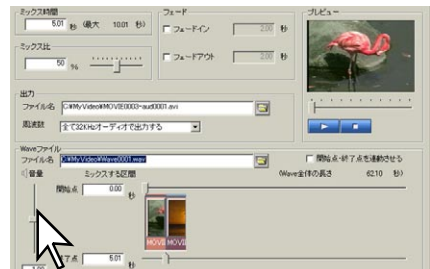
作成した WAVE ファイルが表示されます。

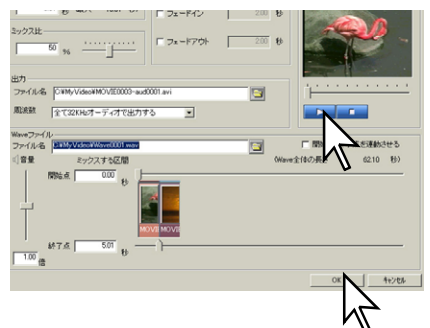
6 WAVEファイルを音声を入れ始めるビデオクリップにドラッグ・アンド・ドロップする

オーディオミックス画面が表示されます。

7 WAVEファイルのうち、使用する長さ、部分を決める

スライダー[ ]を左右にドラッグして、開始点を設定します。

スライダー[ ]を左右にドラッグして、終了点を設定します。

8 スライダー[ ]を上下にドラッグして音量を調整する

フェードイン・フェードアウトにチェックを付けると、音声がフェードします。

9 プレビュー部の再生ボタン[▶]をクリックして音声を確認し、[OK]ボタンをクリックする

レンダリングが始まります。

10

レンダリングが完了すると、編集トラックのビデオクリップ右下にマーク[♪]が付きます。

音声の入ったビデオクリップはライブラリーにも表示されます。

立体文字でタイトルを作ろう

付属のタイトラーを使って、文字タイトルを作ります。
タイトラーにはこの他にもいろいろな機能があります。

次▶
◀前

立体文字の例

立体文字の例 2

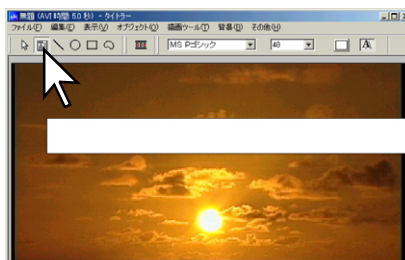
文字の例

実際の動きは、サンプル映像画面でご確認ください。

1

立体文字を入れたいビデオクリップを右クリックし、[タイトル作成] を選ぶ
タイトラーが起動します。

2

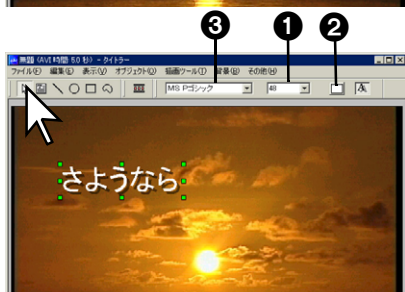
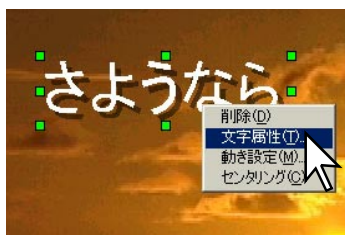
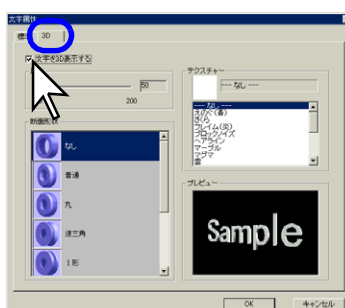
文字入力モードボタン [ ] をクリックし、画面上をクリックする
文字入力領域が表示されます。

3

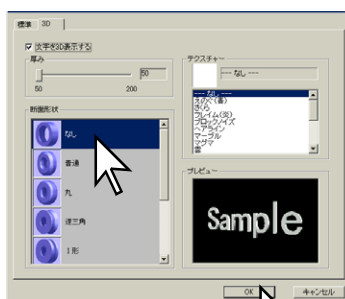
文字を入力する

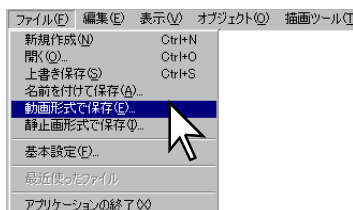
4

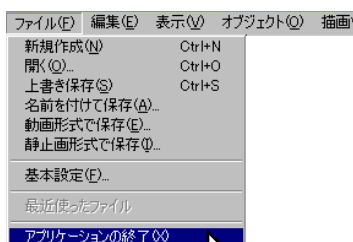
選択モードボタン [ ] をクリックする
文字が配置されます。

文字の大きさ ❶、色 ❷、種類 ❸ は変更できます。

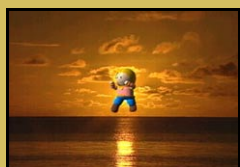
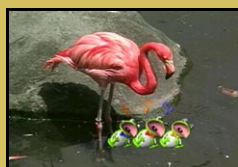
次▶
◀前

5 **文字を右クリックし、コンテキストメニューから [文字属性] を選ぶ**
文字属性設定画面が表示されます。

6 **[3D] タブをクリックし、[文字を 3D 表示する] にチェックを付ける。**
3D 表示モードになります。

7 **3D 文字の断面の形状をクリックして選び、[OK] ボタンをクリックする**
画面に立体文字が表示されます。

文字に動きを付けることもできます。
（文字を選んで、メニューの [オブジェクト] → [動き設定] を選びます）

8 **タイトラーのメニューの [ファイル] → [動画形式で保存］ を選び、保存する**
タイトル名を入力して保存します。

動画形式で保存すると、MotionDV STUDIO で動画編集できます。

9 **タイトラーメニューの [ファイル] → [アプリケーションの終了] を選ぶ**
変更の保存メッセージが表示されますので、[はい] をクリックして保存すると、タイトラーが終了し、MotionDV STUDIO が再び起動します。

作成したタイトルが編集トラックとライブラリーに入ります。

アニメーションイラストを入れよう

タイトラーを使って、アニメーションイラストを入れます。
タイトラーにはこの他にもいろいろな機能があります。

次▷
◁前

イラストの例 1

イラストの例 2

イラストの例 3

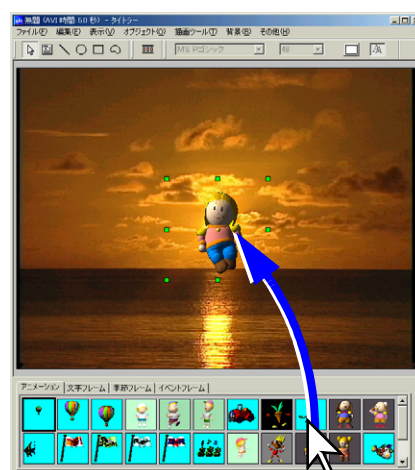
イラストタイトルの例です。

1

イラストを入れたいビデオクリップを右クリックし、[タイトル作成] を選ぶ
タイトラーが起動します。

2

[アニメーション・フレームウィンドウ] から希望のイラストを編集画面にドラッグ・アンド・ドロップする
イラストが配置されます。

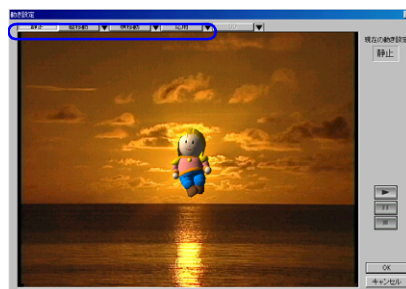
● [アニメーション・フレームウィンドウ] が表示されていないときは、メニューから [表示] → [アニメーション・フレームの表示] を選んでチェックします。

3

イラストを右クリックして、コンテキストメニューから [動き設定] を選ぶ
[動き設定] 画面が表示されます。

4

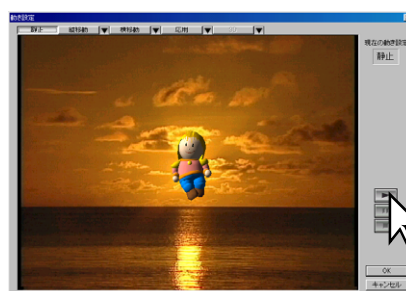
イラストの移動方向を設定する

縦に動かす場合は [縦移動] のプルダウンボタン［▼］をクリックして動きを選びます。
横に動かす場合は [横移動] のプルダウンボタン［▼］をクリックして動きを選びます。

[応用] のプルダウンボタンをクリックすると、自由な動きを設定することができます。

5

再生ボタン [▶] をクリックして、設定した動きを確認し、[OK] ボタンをクリックする

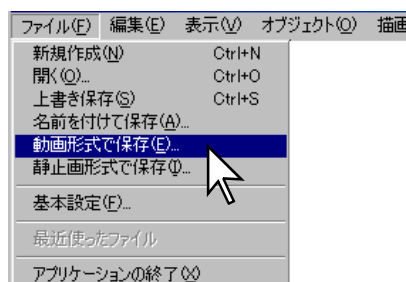
[動き設定] 画面が消えます。

● 実際に動かすには、動画形式で保存する必要があります。

6

タイトラーのメニューの [ファイル] → [動画形式で保存］を選び、保存する

タイトル名を入力して保存します。

動画形式で保存すると、MotionDV STUDIO で動画編集できます。

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　オブジェクト(O)　描画
新規作成(N)　Ctrl+N
開く(O)...　Ctrl+O
上書き保存(S)　Ctrl+S
名前を付けて保存(A)...
動画形式で保存(E)...
静止画形式で保存(I)...
基本設定(F)...
最近使ったファイル
アプリケーションの終了(X)

7

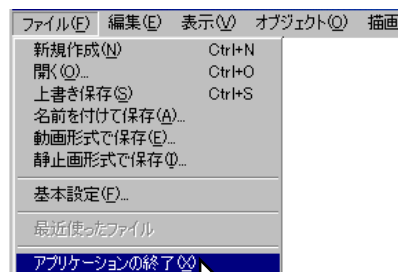
タイトラーのメニューの [ファイル] → [アプリケーションの終了] を選ぶ

変更の保存メッセージが表示されますので、[はい] をクリックして保存すると、タイトラーが終了し、MotionDV STUDIO が再び起動します。

作成したタイトルが編集トラックとライブラリーに入ります。

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　オブジェクト(O)　描画
新規作成(N)　Ctrl+N
開く(O)...　Ctrl+O
上書き保存(S)　Ctrl+S
名前を付けて保存(A)...
動画形式で保存(E)...
静止画形式で保存(I)...
基本設定(F)...
最近使ったファイル
アプリケーションの終了(X)

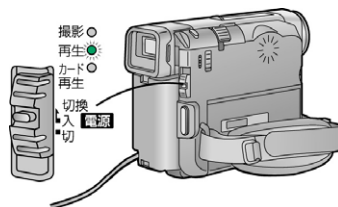
編集内容をテープに録画しよう

次▶
◀前

編集した内容を DV テープに記録することができます。
録画前にデジタルビデオ機器とパソコンを DV ケーブルで接続しておきます。
デジタルビデオ機器を最初に使うときはキャリブレーションを行ってください。

1

録画用のテープをデジタルビデオ機器に入れる

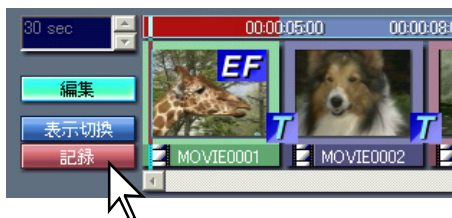
誤消去防止つまみを録画側 [REC] にしておきます。

撮影
再生
カード再生
切換
入
切
電源

2

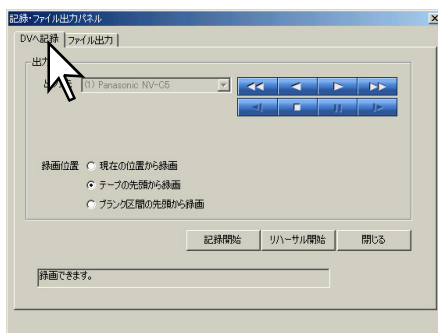
編集したビデオクリップが編集トラックに表示されているか確認する

3

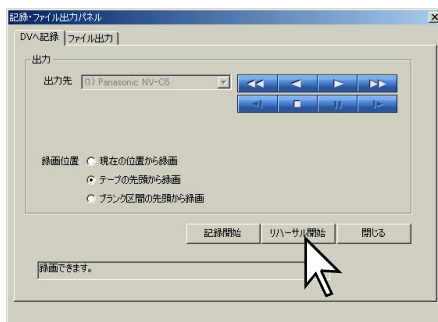
[記録] ボタンをクリックする

記録 / ファイル出力画面が表示されます。

4

[DV へ記録] タブをクリックする

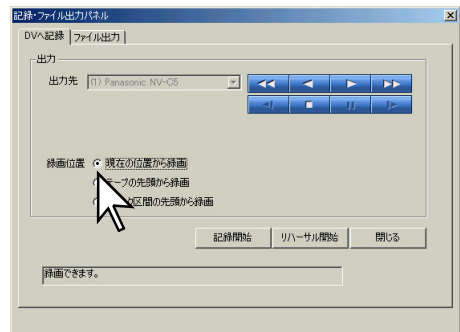
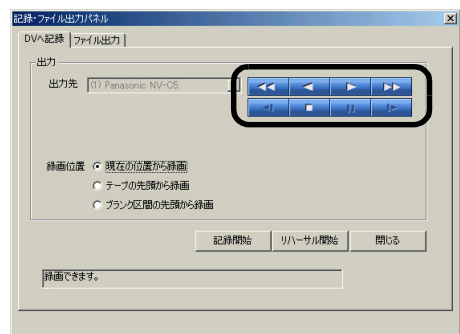
DV テープへ記録する場合の設定画面が表示されます。

5

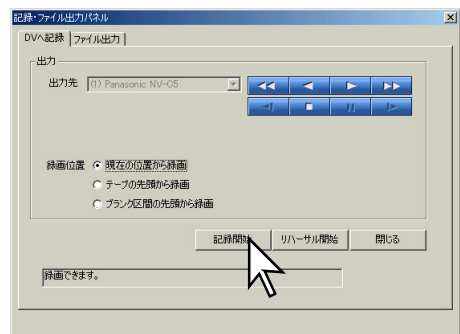
[リハーサル] ボタンをクリックして、どのように録画されるか、接続機器の画面などで確認する

次▷
◁前

6 [現在の位置から録画] を選ぶ

現在のテープ位置から録画を開始します。

[テープの先端から録画] や [ブランク区間の先頭から録画] を選ぶと、テープの録画開始位置を自動的に探します。（手順 7 は必要ありません）

- 機器によっては[ブランク区間の先頭から録画] が選択できない場合があります。

7 操作ボタンで録画を開始したいテープ位置を探す

8 [記録開始] ボタンをクリックする

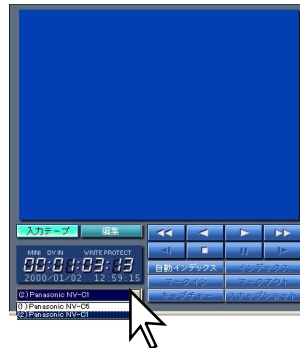
録画が始まります。

9 録画完了のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

これで編集内容がテープに記録できました。

ハイブリッド編集で録画しよう

ノンリニア編集とリニア編集（テープ編集）を組み合わせて使うことができます。（映像効果を入れたい部分はパソコンに一度取り込む必要があります）
デジタルビデオ機器を最初に使うときはキャリブレーションを行ってください。

1

デジタルビデオ機器を 2 台接続し、プルダウンボタン [▼] をクリックして再生機を選ぶ

2

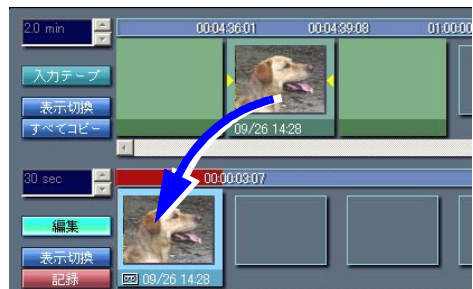
再生ボタン [▶] をクリックしてデジタルビデオ機器を再生し、テープに記録したい部分にマークイン / アウトを設定する

取り込み開始点にマークインを、取り込み終了点にマークアウトを設定します。(P11)

3

入力テープトラックに表示された映像を編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする

編集トラックにも映像のアイコンが表示されます。

この映像に映像効果を入れることはできません。効果を入れるには一度パソコンに取り込む必要があります。

4

[動画] ライブラリーのビデオクリップを編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップする

5

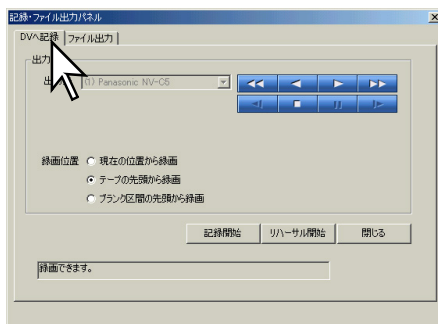
手順 2 ～ 4 を繰り返し、好みの順序に配置する

デジタルビデオ機器を操作するときは [入力テープ] ボタンをクリックして、入力テープモードにしてから操作します。

6 [記録] ボタンをクリックする

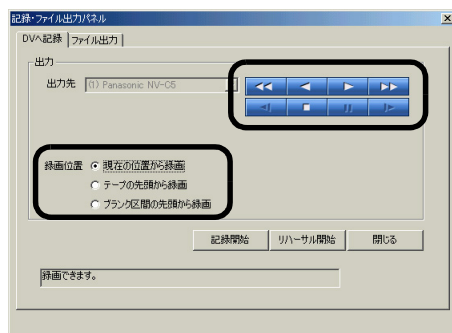
記録 / ファイル出力画面が表示されます。

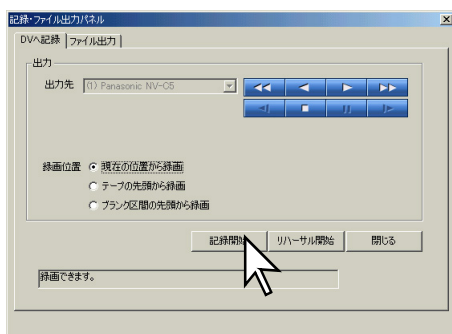
7 [DV へ記録] タブをクリックする

DV テープへ記録する場合の設定画面が表示されます。

8 [現在の位置から録画] を選び、録画を開始したいテープ位置を探す

現在のテープ位置から録画を開始します。

[テープの先端から録画] や [ブランク区間の先頭から録画] を選ぶと、テープの録画開始位置を自動的に探します。

● 機器によっては[ブランク区間の先頭から録画] が選択できない場合があります。

9 [録画開始] をクリックする

録画が始まります。

10 録画完了のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックする

これで再生機のテープ映像とビデオクリップの編集内容が録画機のテープに記録できました。

VideoGiftで動画メールを送ろう

VideoGift を使うと、動画ファイルを電子メールで送れます。（電子メールを送付するには、事前にインターネットや電子メールの設定が必要です）

1

[動画] ライブラリーのビデオクリップを選んで右クリックし、コンテキスト メニューから [ビデオギフト] を選ぶ

VideoGift が起動し、ビデオクリップ（の最初の画面）が表示されます。

2

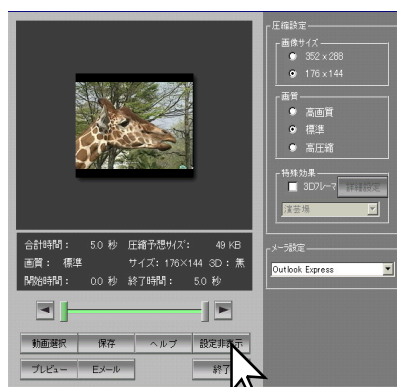
スライダー[▌] をドラッグして、動画ファイルの開始点・終了点を設定する

左のスライダーをドラッグして開始点を設定し、右のスライダーをドラッグして終了点を設定します。

開いた動画をすべて送る場合、この設定は不要です。

3

[設定表示] ボタンをクリックして、画像の大きさ、画質を設定する

[高画質] を選ぶと高画質で、データサイズの大きな画像となります。[高圧縮] を選ぶと、画質は荒くなりますが、データサイズが小さくなります。

4

[プレビュー] ボタンをクリックする

AVI 形式のファイルが ASF 形式に変換されます。（ASF 形式のファイルをプレビュー再生した場合は変換されません）

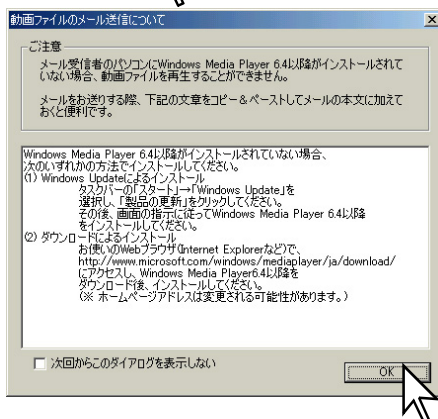
5

[OK] ボタンをクリックする

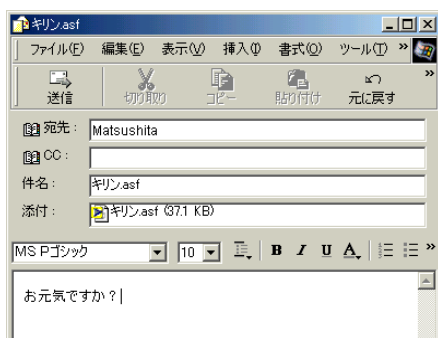
変換された動画ファイルがプレビュー表示されます。

6 [E メール] ボタンをクリックする

設定した画像を電子メールで送るときにクリックします。

7 メッセージを読んで、[OK] ボタンをクリックする

8 メールソフトが起動します。メールを作成し、送信してください。

Outlook Express や Outlook をお使いの場合、自動的に動画ファイルが添付します。その他のソフトでは添付ファイルをソフトの画面にドラッグ・アンド・ドロップしてください。

[Outlook Express] 以外の電子メールソフトをお使いの場合は、［メーラ設定］画面で [▼] をクリックして [その他］を選び、使用する電子メールソフトの実行ファイル（拡張子 .exe）を選んでください。

■ 送信した動画の再生について

VideoGift で送信した動画ファイルを再生するには受信側で Windows MediaPlayer6.4 以降が必要です。

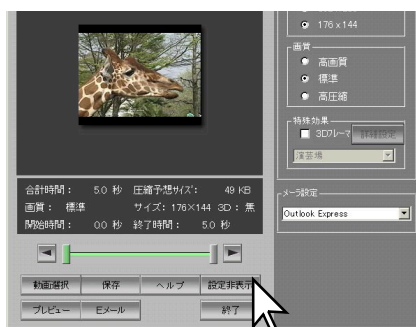
以下の方法でインストールします。
Windows98 の場合、[スタート] → [Windows Update] を選び、[製品の更新] をクリックしてインストールする
下記のアドレスからダウンロード後にインストールする
http://www.microsoft.com/windows/mediaplayer/ja/download

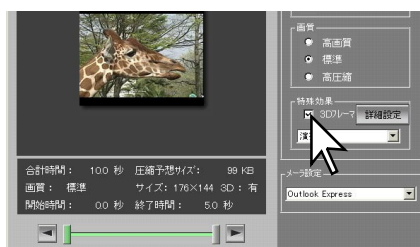
アニメーションのメールを送ろう

VideoGift を使って動画ファイルにアニメーションを付けます。

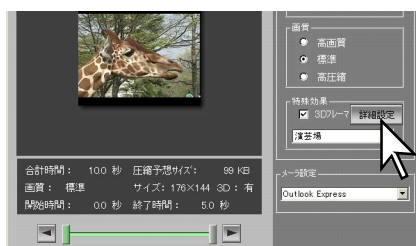
1

VideoGift を起動し (P28)[設定表示] ボタンをクリックする

2

[3D フレーマ] にチェックを付ける

三次元のアニメーションが入れられるようになります。

3

[詳細設定] をクリックする

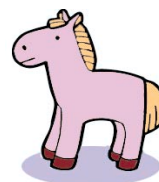
[3D フレーマ詳細] が表示されます。

4

プルダウンボタン [▼] をクリックし、テンプレートの項目を選ぶ

[キャラクター]、[プリミティブ]、[オープニング] から選びます。

5

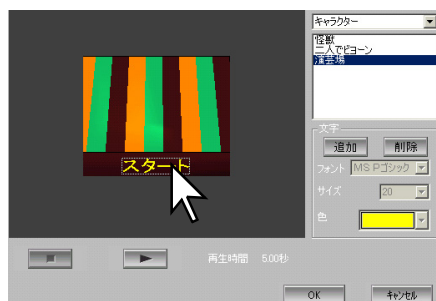
アニメーションの種類をクリックして選ぶ

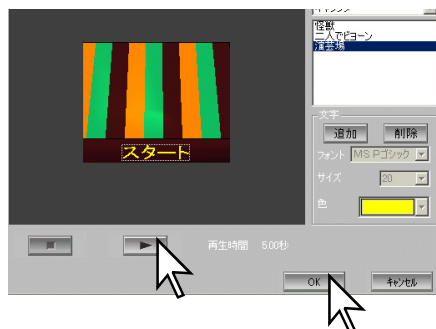
選んだアニメーションがプレビュー画面に表示されます。

6 [追加] ボタンをクリックして文字を入力する

7 プルダウンボタン[▼]をクリックして、フォントの種類、サイズ、文字色を選ぶ

❶ フォントの種類
❷ フォントサイズ
❸ 文字色

8 文字部分をドラッグして任意の位置に配置する

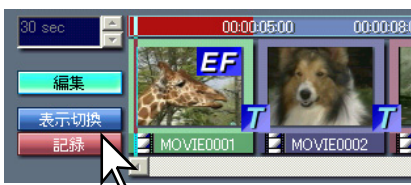
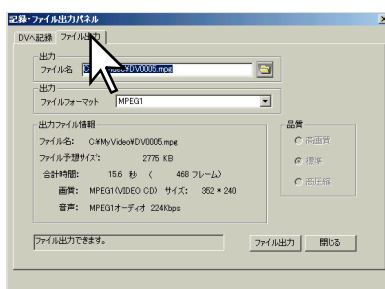
画面を選んで選択モードにします。
文字を削除したい場合は文字を選んで、[削除] ボタンをクリックします。

9 再生ボタン[▶]をクリックして、プレビュー画面で再生映像を確認後、[OK] ボタンをクリックする

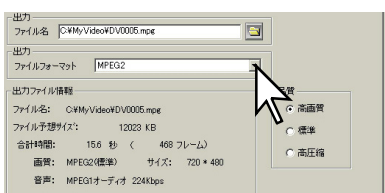
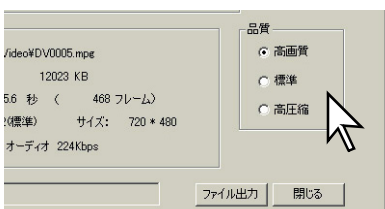
その他必要な設定をして、電子メールに添付して送ります。(P28)

MPEG 形式のファイルに出力しよう

編集した映像を MPEG 形式のファイルに出力します。D-VHS ビデオに記録する場合、MPEG2 形式で保存する必要があります。

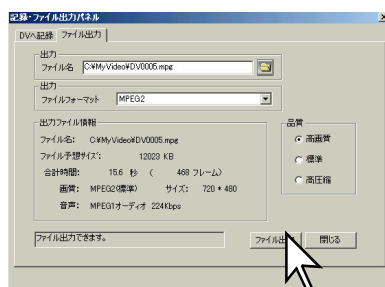
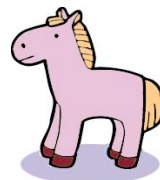
1 編集したビデオクリップを編集トラックに表示させる

2 ［記録］ボタンをクリックする

記録 / ファイル出力画面が表示されます。

3 ［ファイル出力］タブをクリックする

4 ［出力］設定部でプルダウンボタン［▼］をクリックしてファイルフォーマットを選ぶ

MPEG2 形式以外のファイルは D-VHS ビデオに記録できません。

5 ［品質］の項目で画質をクリックして選ぶ

6 ［ファイル出力］ボタンをクリックし、MPEG 形式のファイルを作成する

ライブラリーの［MPEG/ASF］に MPEG 形式のファイルのアイコンが表示されます。

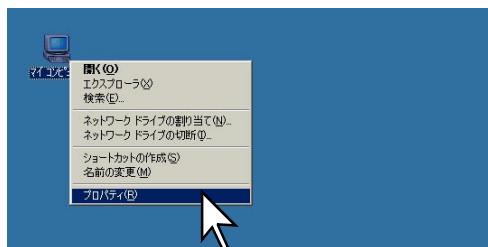
- ファイルの長さにもよりますが、ファイルへの出力には多少時間がかかります。

D-VHS ビデオを接続しよう

Windows® Me でお使いの場合、D-VHS ビデオを接続して編集内容を D-VHS ビデオに録画することができます。

1 MotionDV STUDIO を終了し、パソコンを終了する

2 D-VHS ビデオの電源を入れ、パソコンと D-VHS ビデオを DV ケーブルで接続した後、パソコンを起動する

バージョンの競合画面が表示された場合は、［はい］ボタンをクリックし、メッセージに従ってインストールを進めてください。

3 ［マイコンピュータ］アイコンを右クリックして、コンテキスト メニューから［プロパティ］を選ぶ

［システムのプロパティ］が表示されます。

4 ［デバイス マネージャ］タブをクリックし、［イメージング デバイス］アイコンをダブルクリックする

ご使用の D-VHS ビデオが表示されているか確認します。

- D-VHS ビデオカセットレコーダー /NV-DHE10 をお使いの場合、［Panasonic Bulletin Board AV/C Device（NV-DHE10）］、［Panasonic D-VHS AV/C Device（NV-DHE10）］、［Panasonic Tuner AV/C Device（NV-DHE10）］と表示されていれば、正常に接続しています。

応用

D-VHS ビデオに録画しよう

D-VHS ビデオを接続して編集内容を D-VHS ビデオに録画します。この操作の前に、パソコンと D-VHS ビデオを接続しておいてください。

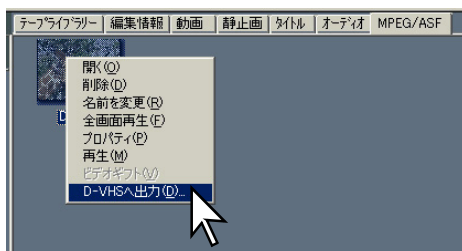
1

D-VHS ビデオの入力設定を i.LINK に設定し、接続した機器（パソコン）を選ぶ（[d1 その他]、[d2 その他］など）

- 設定方法については、D-VHS ビデオの説明書をお読みください。

2

作成した MPEG2 ファイルのアイコンを右クリックし、コンテキストメニューから [D-VHS へ出力] を選ぶ

- 1 4 秒以下の MPEG 2 ファイルは D-VHS ビデオに記録できません。

3

プルダウンボタン［▼］をクリックして、記録方式を選ぶ

選択可能な項目のみ表示されます

- MPEG2 の画質で［高圧縮］を選んだ場合のみ［D-VHS LS3］を選ぶことができます。
- 当社製の MPEG2 エンコーダー内蔵の D-VHS ビデオをお使いの場合、[S-VHS 標準 /3 倍］形式を選ぶことができます。

4

［記録開始］ボタンをクリックする

記録終了のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。

- [記録に失敗しました・・・] とメッセージが表示された場合、手順 1 で選んだ接続機器が違っています。正しい機器に変更して、再度［記録開始］ボタンをクリックしてください。

■ D-VHS ビデオ使用時のお願い

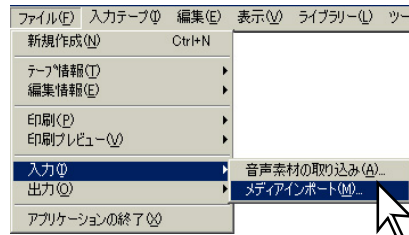
映像を D-VHS ビデオで記録すると、始端と終端が数秒間記録されない、映像や音声の始端・終端が数秒間乱れる、異音が記録されるといった場合があります。
MPEG2 ファイルの出力時に、編集トラックの先頭と末尾に白や黒の静止画を配置するとこの現象を防ぐことができます。（静止画は初期設定で 5 秒間）（詳細は PDF 説明書をお読みください）

- D-VHS ビデオに記録後、正常に記録されているか確認してください。

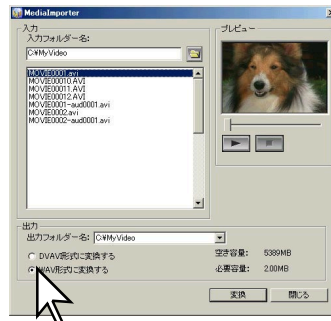
編集できるファイル形式に変換しよう

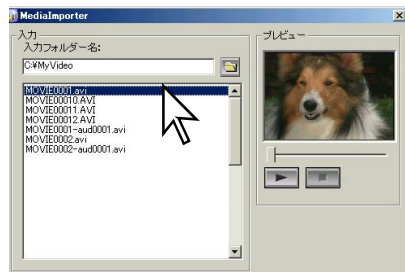
MPEG ファイルを AVI 形式に変換すると編集に使えるようになります。MP3 形式などの音声ファイルも WAVE 形式への変換で編集に使えます。

1

メニューの［ファイル］→［入力］→［メディアインポート］を選ぶ
メディアインポートの画面が表示されます。

2

出力形式をクリックして選ぶ

［DVAVI 形式に変換する］：
MPEG1/2、ASF（MPEG4）ファイルを AVI 形式に変換します。
［WAV 形式に変換する］：
AVI、MPEG1/2、ASF（MPEG4）ファイルの音声部分や MP3、WMA ファイルを WAVE 形式に変換します。

3

変換するファイルをクリックして選ぶ
MotionDV STUDIO で使用中のフォルダー以外にあるファイルを選ぶ場合はフォルダーボタン［ ］をクリックして、フォルダーを選んでから、ファイルを選びます。

4

［変換］ボタンをクリックする
ファイル変換が始まります。

5

変換終了のメッセージが表示されたら［OK］ボタンをクリックし、［閉じる］ボタンをクリックして、メディアインポートの画面を閉じる
ライブラリー画面に変換したファイルが表示されます。（MotionDV STUDIO でお使いのフォルダー以外に保存することはできません）

応用

Q&A

MotionDV STUDIO を使うときに起こるトラブルの解決方法を説明しています。
PDF 説明書の Q&A にも詳しく記載していますので、あわせてお読みください。

：デジタルビデオ機器が認識されなかったり、操作できなかったりする。

：デジタルビデオ機器の電源が入っているか確認してください。
：DV ケーブルがしっかり接続されているか確認してください。パソコンで認識しない場合は、一度 DV ケーブルを抜き差ししてください。
：接続されているデジタルビデオ機器になにか異常が発生していないか確認してください。
：ご使用のデジタルビデオ機器が動作確認済みの機器かお確かめください。（パナソニックのホームページをお読みください (P4)）
：パソコンの状態が不安定になっている場合があります。パソコンを起動しなおしてみてください。

：デジタルビデオ機器の映像がパソコンに表示されない。

：パソコン側から再生操作をしてデジタルビデオ機器に映像が映っても、パソコンの画面に映像が映るまで少し時間がかかります。
：デジタルビデオ機器を 2 台接続している場合は、再生機（入力側）と録画機（出力側）の選択が正しくできているか確認してください。
：記録設定で、［記録時には PC でのモニター表示を停止する］にチェックが付いていると、記録時の映像がパソコンのプレビュー画面に映りません。記録設定はメニューの［ツール］→［設定］を選び、［高度設定］タブをクリックすると設定できます。

：映像の取り込みができない。

：約 4 分の映像を取り込むのに約 1GB 以上の空き容量が必要です。ハードディスクの空き容量は充分かどうか確認してください。
：テープ映像にタイムコードが連続して記録されていないと、うまく取り込めないことがあります。タイムコードが連続している、記録済みのテープをご使用ください。

：キャリブレーションをすると途中で止まってしまう。

：キャリブレーションの実行中に、キャリブレーションが止まってしまう場合は再度キャリブレーションを行ってください。それでも止まる場合は、手動でキャリブレーションを行ってください。手動設定は、キャリブレーション設定画面の［タイミング調整］設定部でずれていると思われるフレーム数を入力して補正します。記録開始位置と記録終了位置はそれぞれ- 50 ～＋ 50 フレームまでの調整が可能です。（PDF 説明書を参照）

：特殊効果が入らない。

：静止画や入力テープトラックの映像を編集トラックに配置しても、ビデオエフェクトやトランジションエフェクトなどの特殊効果を入れることはできません。静止画はタイトラーを起動し、動画形式で保存すると効果を入れられるようになります。入力テープトラックの映像は、一度パソコンに取り込んでから配置すると、特殊効果が入ります。

：長いビデオクリップの一部に特殊効果を入れたい。

：配置したビデオクリップは分割することができます。分割すると、部分的に特殊効果を入れることができます。
編集トラックに配置したビデオクリップの分割したいところにカレントバー（赤いライン）を移動させて［分割］ボタンをクリックすると、ビデオクリップが 2 分割されます。（PDF 説明書を参照）

：タイトラーで動き設定をしたのに、タイトルが動かない。

：動き設定をした後に、［動画形式で保存］を選んで、AVI 形式にすると、動くようになります。AVI 形式のファイルは Windows® Media Player で再生して確認できます。

：取り込んだ画像を印刷したい。

：MotionDV STUDIO では取り込んだ画像をそのまま印刷することはできませんが、DV テープや VHS テープのラベルを印刷することができます。また、映像の情報をタイムシートとして印刷することもできます。（PDF 説明書を参照）

：タイトラーの［動き設定］でイラストに 3 次元の動き（3D）を付けられない。

：3D の設定ができるのは、文字、立体文字だけです。イラストや AVI 形式の子画面には、縦移動・横移動の他に放物線や波線の動きを設定できます。（応用）（PDF 説明書を参照）

：動画映像の中に違う映像が動いているような映像が作りたい。

：ライブラリーのビデオクリップを右クリックして、［タイトル作成］を選び、タイトラーを起動し、メニューの［オブジェクト］→［AVI ファイル挿入］を選びます。表示したい動画（AVI）ファイルを選ぶと、ビデオクリップに別映像が子画面として配置されます。（動画形式で保存すると、2 つの映像ファイルが合成され、1 つのビデオクリップになります）（PDF 説明書を参照）

：徐々に消えていくようなタイトルが作りたい。

：タイトラーで文字やイラストを配置し、メニューの［オブジェクト］→［動き設定］を選びます。［静止］ボタンをクリックしてフェード時間を設定すると、徐々に消えていく（または現れる）タイトルを作ることができます。

：画面に描いた図形に動き設定ができない。

：タイトラーの描画ツールを使って、円や長方形、線を描くことはできますが、これらは動かすことができません。描いた図形などに動き設定をしたい場合は、Windows に付属の［ペイント］ソフトなどで描いた図形をビットマップ形式で保存してください。メニューの［オブジェクト］→［スプライト挿入］を選んでその画像を配置すると、動き設定ができます。（PDF 説明書を参照）

：映像に DV テープに撮った別映像の音声を入れたい。

：音声を入れ始めるビデオクリップを編集トラックから選び、メニューの［編集］→［オーディオミックス］を選びます。Wave ファイルのファイル名に DV テープから取り込んだ映像（ビデオクリップ）のファイル名とパスを入力すると、その映像の音声が追加されます。（PDF 説明書を参照）

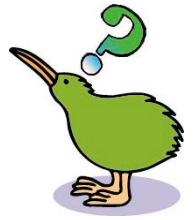
：DV テープの映像やビデオクリップから静止画を取り込みたい。

：取り込みたいところで静止画再生にし（ビデオクリップの場合はカレントバーを取り込みたいところに移動させる）、［スナップショット］ボタンをクリックすると静止画として取り込めます。取り込む前にはメニューの［ツール］→［設定］を選んで、静止画形式（BMP 形式か JPEG 形式）を設定してください。（PDF 説明書を参照）

：取り込み中にこま落ちや音飛びがする。

：パソコンのハードディスクに DMA 設定がされていないと、正常に記録できないことがあります。Windows のシステムプロパティでハードディスクのプロパティを開き、［設定］タブをクリックすると DMA 設定が行えます。

：10 秒のビデオクリップにオーディオミックスした場合、10.01 と設定できた。

：MDVS の編集トラックでは、本来 1 秒間のフレーム数（29.97 フレーム）を使いやすくするために、30 フレームで構成しています。そのため、編集トラック上でビデオクリップの長さが 10 秒のものは正確に時間計算すると、10.0100・・・秒になります。

：［インデックス］はどのように使うのですか。

：テープ映像を再生中に［インデックス］ボタンをクリックすると、インデックス（目印）が入ります。（入力テープトラックのシーンはインデックスが入ったところで分割されます）インデックスとインデックスの間の映像を複数選んで簡単にパソコンに取り込むことができます。
また［自動インデックス］ボタンをクリックすると、シーンの変わり目を自動的に探し出し、インデックスを付けます。
インデックス情報は保存できます。その情報は再び同じテープで編集するときに使うことができます。（PDF 説明書を参照）

：オーディオミックスでオーディオ CD の音楽を入れたい。

：オーディオ CD の音声を録音する場合、Windows 側で録音デバイスの設定が必要になります。以下の手順で行ってください。

❶［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］を選ぶ
❷ メニューの［オプション］→［プロパティ］を選び、［録音］を選んで、表示するコントロールすべてにチェックを入れる
❸［ステレオミックス］または［モノラルミックス］を選ぶ

パソコンによっては CD から録音できないものもあります。詳しくはパソコンの説明書をお読みください。（PDF 説明書を参照）

：パソコン側で、接続した D-VHS ビデオを認識しない。

：パソコンと D-VHS ビデオを接続するときは、パソコンの電源は切っておき、D-VHS の電源は入れた状態で、行ってください。
パソコンの起動後は、接続できているか、［システムのプロパティ］の［デバイス マネージャ］で確認してください。

：D-VHS ビデオに記録したり、リハーサルしても、D-VHS ビデオに接続したテレビに映像が映らない。

：**D-VHS ビデオにテレビを接続していても、D-VHS ビデオに MPEG デコーダーが搭載されてなければ記録中の映像やリハーサル映像を確認できません。その場合、一度記録したテープを D-VHS ビデオで再生してご確認ください。（MPEG2 エンコーダー（デコーダー）内蔵の当社製 D-VHS ビデオには、D-VHS ビデオレコーダー /NV-DHE10 があります。（2001 年 3 月現在））**

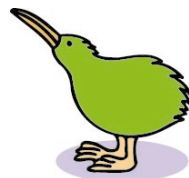
：D-VHS ビデオを接続して記録しようとすると、エラーメッセージが出た。

：D-VHS ビデオの映像出力を i.LINK にしていますか？ i.LINK にして映像出力元のパソコン（「d1 その他」、「d2 その他」など）を選んでください。（選択方法がわからないときは、一度 MotionDV STUDIO を終了し、D-VHS ビデオ以外の i.LINK 機器をパソコンから外し、D-VHS ビデオとパソコンだけが接続されている状態で MotionDV STUDIO から D-VHS ビデオへの記録やリハーサルを行うと、自動的に映像出力元のパソコンが選ばれます）
：i.LINK 機器の特性上、パソコンに接続しているデジタルビデオ機器も D-VHS ビデオ側で接続機器と認識します。複数の i.LINK 機器を接続しているときは、どの機器がパソコンかわからない場合があります。間違った機器を選んで記録やリハーサルをしようとすると、［記録に失敗しました　D-VHS ビデオで i.LINK 機器番号の選択があっていない可能性があります i.LINK 機器番号を切り替えて、再度記録を行ってください］というエラーメッセージが出ますので、D-VHS ビデオ側で i.LINK 機器を選び直して、再度記録やリハーサルを行ってください。

：D-VHS ビデオに記録できない。

：D-VHS ビデオに映像を出力できるのは、Windows® Me だけです。Windows® 98 Second Edition をお使いの場合 D-VHS ビデオへの出力機能はインストールされません。
：D-VHS ビデオに記録できるのは MotionDV STUDIO 3.0J で作成した MPEG2 形式のファイルだけです。MotionDV STUDIO2.0 などで作成した MPEG2 形式のファイルはご使用になれませんので、再度 MotionDV STUDIO 3.0J で MPEG2 形式に出力してください。

お願いとヒント

お願いとヒントは PDF 説明書にも詳しく記載していますので、あわせてお読みください。

- MotionDV STUDIO 使用中、パソコンが不安定になったり、ソフトウェアが終了することがあります。パソコンの使用状態にもよりますが、画像編集は非常に大きなパソコンのパワーを必要としますので、パソコンが不安定な状態になることがあります。編集したデータなどはこまめに保存しておくことをおすすめします。

- 自動インデックスが止まった場合は、そのまま再度 [自動インデックス] ボタンをクリックしてください。自動インデックスが再開します。

- カセット装着後は 10 秒ほどたってから操作を行ってください。

- ノートパソコンをお使いの場合は AC 電源をお使いください。バッテリーを使用するとパソコンの設定によって、CPU 性能を制限していることがあります。(その場合こま落ちが発生しやすくなります)

- MotionDV STUDIO 使用中はデジタルビデオ機器の電源を切らないでください。電源を切ると、MotionDV STUDIO が操作不能になることがあります。

- ハイブリッド編集時にビデオクリップとテープの映像のつなぎ目で映像や音声がとぎれることがあります。

- 入力テープに SP モードで記録した映像と LP モードで記録した映像が混在している場合、モードの切り換わり部分での取り込みが正常にできないことがあります。

- 編集映像を記録する前に、必ずキャリブレーションを行ってください。
  キャリブレーション実行中にデジタルビデオ機器を操作しないでください。ただし、D-VHS ビデオのキャリブレーションはできません。
  キャリブレーションが途中で止まったときは、手動でフレームを調整してください。

- テープ映像を編集トラックにドラッグ・アンド・ドロップで配置する場合、2 秒以下の映像は配置できません。

- テープの始端や終端付近ではうまく記録できないことがあります。

- D-VHS ビデオへ出力中に音声表示が「左」になり、記録中に「左右」になりますが、問題ありません。出力映像は正常に記録されています。
- D-VHS ビデオを 2 台以上接続しても、MotionDV STUDIO で認識するのは 1 台だけです。

- D-VHS ビデオで番組を予約している場合は、予約を解除してから出力映像を記録してください。

- メディアインポートを使ってファイル形式を変換する場合、ファイルによっては変換できないことがあります。

- 長時間のビデオクリップをレンダリングすると非常に時間がかかります。レンダリング中は、パソコンを操作しないでください。操作すると、レンダリングがうまくいかないことがあります。

- メディアインポートで、ファイル変換を行う場合、WMA 形式のファイルの変換中は進行状況を表すプログレスバーが更新されませんが、変更は正常に行われます。

- MotionDV STUDIO のチュートリアルのサンプル映像をご覧になるには、Flash Player5.0 が必要です。それ以外の環境ではご使用にならないでください。また、ブラウザの種類、バージョンによっては正常に表示されない場合があります。(Internet Explorer 5.5 以降をお使いいただくことをおすすめします)

- 編集内容をテープに記録する場合、記録を開始したいテープ位置で静止画再生にしてから［記録開始］ボタンを押すことをおすすめします。(［現在の位置から録画］を選んだ場合)

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は･･･
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は･･･
- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（裏表紙をご覧ください）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間　※「本体」にはソフトウェアの内容は含みません

■ 修理を依頼されるとき

この説明書をよくお読みのうえ、直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- 保証期間中は
  保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書をそえてご持参ください。
- 保証期間が過ぎているときは
  修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後８年です。
  注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品および補助材料費です。
出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）　**0570-087-087**

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

お取り扱い・お手入れなどのご相談

ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター

電話　フリーダイヤル　**0120-878-365**（パナは　365日）
FAX　フリーダイヤル　**0120-878-236**
365日／受付9時～20時

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

ナショナル／パナソニック
修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

•お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。
呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
•携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北海道地区

地域	所在地	電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地域	所在地	電話
青森	青森市大字八ッ役字矢作1-37	☎(017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市流通センター3丁目12-2	☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎(0243)34-1301

首都圏地区

地域	所在地	電話
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎(028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1	☎(027)352-1109
水戸	水戸市柳河町309-2	☎(029)225-0249
つくば	つくば市花畑2丁目8-1	☎(0298)64-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市下飯田2丁目1-27	☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-7725

中部地区

地域	所在地	電話
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎(0263)58-0073
静岡	静岡市西島765	☎(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎(059)255-1380

近畿地区

地域	所在地	電話
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	☎(077)582-5021
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市椎木町404-2	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

地域	所在地	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市西津田2丁目10-19	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎(0839)86-4050

四国地区

地域	所在地	電話
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎(088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎(088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎(089)971-2144

九州地区

地域	所在地	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市本庄町大字本庄896-2	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2	☎(0985)85-6530
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市矢之脇町10-5	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地域	所在地	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0101

使用許諾補足契約書（日本語訳）

「MotionDV STUDIO のインストール」の手順 8(P6) で表示される使用許諾補足契約書の日本語訳です。よくお読みの上インストールしてください。

下記の使用許諾契約書をお読みください。「Page Down 」キーを押して本契約書の他の部分をご確認ください。

マイクロソフトソフトウェアのエンドユーザー使用許諾補足契約書
重要：以下のライセンス契約書を注意してお読みください－「オンライン」または電子文書を含むこれらの Microsoft Corporation （以下「マイクロソフト」といいます）オペレーティングシステム・コンポーネント（以下「OS コンポーネント」といいます）には、お客様が以下に記載された当該 Microsoft オペレーティングシステム製品（以下「OS 製品」といいます）の使用許諾を得ている契約書（各「エンドユーザー使用許諾契約書」以下「使用許諾契約書」といいます）の諸条項および本エンドユーザー使用許諾補足契約書（以下「本補足契約書」といいます）の諸条項が適用されるものとします。本 OS コンポーネントをインストール、複製、または他の方法で使用することにより、お客様は当該 OS 製品の使用許諾契約書および本補足契約書の諸条項に拘束されることに承諾されたものとします。これらの諸条項に同意されない場合は、本 OS コンポーネントをインストール、複製、または使用のいずれも許諾できません。

注意：お客様が「OS 製品」（Microsoft Windows 95 、Microsoft Windows 98 、MicrosoftWindows NT ワークステーション・バージョン 4.0 および / または Microsoft Windows NT サーバー・バージョン 4.0 ）の正当な使用許諾契約書を保有していない場合は、OS コンポーネントをインストール、複製、または他の方法で使用する権限がないものとし、お客様は本補足契約書のもとでの権利を保有しないものとします。

本補足契約書において、別の定義がされていない用語は、当該 OS 製品の使用許諾契約書の用語に与えられた意味を有するものとします。

一般。OS コンポーネントは、当該 OS 製品の既存の機能を更新したり、補足したり、または置き換える目的でマイクロソフトによってお客様に提供されます。お客様の OS 製品が Windows NT サーバーのバージョンである場合、OS コンポーネントは「クライアントソフトウェア」とみなされます。当該 OS 製品に対する OS 製品の使用許諾契約書の諸条項（参照事項別に本補足契約書中に記載されます）および本補足契約書に記載された諸条項をすべてお客様が遵守するという前提の下に、マイクロソフトはこれら諸条項に基づいて OS コンポーネントの使用をお客様に許諾するものとします。本補足契約書の条項が当該 OS 製品の使用許諾契約書の条項と矛盾する場合、OS コンポーネントに関しては本補足契約書の条項のみが適用されるものとします。

その他の権利と制限
お客様が正当な使用許諾を得た複数の当該 OS 製品のコピーを所有している場合、OS 製品の正当な使用許諾を得たコピーが使用されているお客様の全てのコンピューター上で当該 OS 製品の一部として OS コンポーネントのコピーを 1 部複製、インストール、使用することができますが、お客様が上記の諸条項に従って OS コンポーネントの追加コピーを使用することを条件とします。当該 OS 製品の正当な使用許諾を得た各コピーについて、お客様は OS コンポーネントが事前にインストールされたのと同じコンピューター上で OS コンポーネントの保存、もしくは再インストールの目的のためにのみ OS コンポーネントの追加コピーを 1 部複製することもできます。マイクロソフトは、OS コンポーネントに対するすべての権利、タイトル、利害関係を保持します。明白に譲渡されていない権利はすべてマイクロソフトによって保有されるものとします。

OS コンポーネントには、アプリケーションが 1 台のコンピューターにしかインストールされていなくても、複数のコンピューター間でアプリケーションを共有できる技術が含まれている場合があります。お客様は、複数ユーザー間の会議のために、すべてのマイクロソフトアプリケーション製品について、この技術を利用することができます。マイクロソフト以外のアプリケーションについては、付属の使用許諾契約書を参照されるか、アプリケーションの共有が認められているか否か許諾者に確認してください。

当該 OS 製品がマイクロソフトまたはその全額出資子会社によってお客様にライセンス供与された場合、OS コンポーネントが当該 OS 製品の使用許諾契約書の限定保証条項の範囲内でお客様にライセンス供与されていることを前提として、当該 OS 製品の使用許諾契約書に記載された限定保証（もしあれば）が OS コンポーネントに適用されます。ただし、本補足契約書によって限定保証の与えられる期間は延長されません。当該 OS 製品がマイクロソフトまたはその全額出資子会社以外の企業によってお客様にライセンスが供与された場合、マイクロソフトは下記の通り、OS コンポーネントに関するあらゆる保証を否認します。

保証の否認。準拠法によって容認される範囲内で、マイクロソフトおよびそのサプライヤーはお客様に OS コンポーネントおよび（もしあれば）OS コンポーネントに関連したサポートサービス（以下「サポートサービス」といいます）を現状のまま、瑕疵を問わない条件で提供します。そして、マイクロソフトおよびそのサプライヤーは、明示的か黙示的かを問わず、また法律に定められているか否かを問わず、OS コンポーネントおよびサポートサービスについて、あらゆる保証および条件を否認するものとします。
それは以下の、または以下に関連する保証（もしあれば）または条件を含みますが、これに限定されません。権原、権利侵害のないこと、商品性、特定目的に対する適合性、無ウイルス性、応答の正確性または完全性、結果、過失のないことまたは技術的労力が不要なこと、安心して使用し、所有できること、また記載された通りであること。OS コンポーネントおよびサポートサービスの使用または性能から生じるすべてのリスクは、お客様が負うものとします。

付随的損害、間接的損害、その他の特定損害の賠償責任免除。準拠法によって容認される範囲内で、マイクロソフトまたはそのサプライヤーは、マイクロソフトまたはそのサプライヤーが損害発生の可能性を知らされていたとしても、以下に掲げる損害（これらの損害を含むがそれに限定されない）に対する特定的、付随的、または間接的損害賠償について一切責任を負わないものとします。OS コンポーネントまたはそのサポートサービスを利用したこと、または利用できないことによって生じたかそれに関連して生じた、あるいは本補足契約書の規定に基づいて、またはそれに関連してサポートサービスを提供したこと、または提供できないことによって生じたか、それに関連して生じた（利益の損失、機密情報やその他情報の消失、業務の中断、人身事故、プライバシーの侵害、義務の不履行（誠実の義務又は相当な注意義務を含む））、過失およびその他の金銭上のまたはその他一切の損害。

責任および補償の制限。お客様のこうむった損害（上に記載したあらゆる損害及びあらゆる直接的損害または全般的損害が無制限に含まれる）がいかなる理由によるものであっても、本補足契約書の規定に基づくマイクロソフトおよびそのサプライヤーの全ての責任、および上記の全ての損害に対してお客様の受ける一切の補償は、OS コンポーネントに対してお客様が実際に支払われた金額か 5.00 米ドルの何れか大きい額に制限されるものとします。補償が本来の目的を達していない場合であっても、上記の制限、免除、否認は、準拠法によって容認される最大限度適用されるものとします。

本使用許諾契約書のすべての条項に同意しますか。「NO」を選択すると、インストールが終了し、実行中のプログラムが閉じます。インストールするためには、本契約書への同意が必要です。

■ 開封前に必ずお読みください。

このソフトウェア製品については下記の「ソフトウェア使用許諾書」に同意していただけることが使用の条件となっております。お手数ではございますが、ディスクの包装を開封される前に「ソフトウェア使用許諾書」を十分にお読みください。ディスクの包装を開封された場合にはお客様が「ソフトウェア使用許諾書」に同意いただいたものとさせていただきます。

ソフトウェア使用許諾書

1 権利

お客様は松下電器産業株式会社より以下の条件に基づき、本ソフトウェア（「MotionDV STUDIO 」およびそのマニュアルに記録または記載された情報のことをいいます）を日本国内で使用する権利の承諾をうけますが、著作権がお客様に移転するものではありません。著作権は、松下電器産業株式会社および松下電器産業株式会社へのライセンス許諾者が所有します。

2 第三者の使用

お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡、頒布、貸与あるいは使用などをさせることはできません。

3 コピーの制限

本ソフトウェアのコピーは保管（バックアップ）の目的のために限り、機械読みとり可能な形式で 1 部のみを行うことができます。お客様は本ソフトウェアの複製物上に本ソフトウェアに表示されているものと同一の著作権表示を行ってください。

4 使用コンピューター

本ソフトウェアはそれぞれのコンピューター 1 台に対してのみの使用とし、それ以上のコンピューターで使用することはできません。

5 解析、変更および改造

本ソフトウェアの解析、変更または改造などを行ったり、第三者に行わせたりすることはできません。このようなお客様の行為から、本ソフトウェアに何らかの欠陥、またはお客様に損害が生じたとしても、弊社、弊社へのライセンス許諾者および販売店等では一切の責任を負いません。

6 ネットワーク

ネットワーク上で、本ソフトウェアを使用したり別のコンピューターへ伝送することはできません。

7 アフターサービス

お客様がご使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社の指定する窓口まで電話でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り (バグ) や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。ただし、これには付属のご愛用者登録カードによるご愛用者登録がなされていることが必要です。

8 免責

本ソフトウェアに関して弊社、弊社へのライセンス許諾者および販売店などは何等の保証を行うものではありません。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたハードウェアなどの不具合を含むお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社、弊社へのライセンス許諾者および販売店などはその責任を負いません。

9 お客様が上記使用条件に違反した場合、本ソフトウェアの使用権の許諾は自動的に終了いたします。この場合、お客様は本ソフトウェアを廃棄するものとします。

〈無料修理規定〉

1.取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
(イ)無料修理をご依頼になる場合には、商品に取扱説明書から切り離した本書を添えていただきお買い上げの販売店にお申しつけください。
(ロ)お買い上げの販売店に無料修理をご依頼にならない場合には、お近くのご相談窓口へご連絡ください。
2.ご転居の場合の修理ご依頼先等は、お買い上げの販売店またはお近くの修理ご相談窓口にご相談ください。
3.ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合には、お近くのご相談窓口へご連絡ください。
4.保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
(イ)使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
(ロ)お買い上げ後の輸送、落下などによる故障及び損傷
(ハ)火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧などによる故障及び損傷
(ニ)車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷
(ホ)一般家庭以外（例えば業務用など）に使用された場合の故障及び損傷
(ヘ)本書のご添付がない場合
(ト)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5.本書は日本国内においてのみ有効です。
6.本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
7.お近くのご相談窓口についてはP40～41をご参照ください。

修理メモ

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くのご相談窓口にお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理や補修用性能部品の保有期間については取扱説明書の「保証とアフターサービス」(P40)をご覧ください。
※This warranty is valid only in Japan.

持込修理

Panasonic

パナソニックDV動画編集キット/ソフト保証書

本書はお買い上げの日から下記期間中故障が発生した場合には本書裏面記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。詳細は裏面をご参照ください。

品　　番	VW-DTM2CW/VW-DTM2W
保証期間	お買い上げ日から **本体1年間** （ただし、CD-ROMは除く）
※お買い上	年　　　日
※お客様	様 話　（　　　）　−
※販売店	住所・氏名 電話　（　　　　）　−

松下電器産業株式会社

ビデオ事業部
〒571-8504 大阪府門真市松生町1番15号

放送システム事業部
〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号

ご販売店様へ　　※印欄は必ず記入してお渡しください。